



バックエンド部会

2023年度 部会表彰

2023年度バックエンド部会賞 受賞要件



功績賞

バックエンド分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人、毎年1名以内

業績賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループ、毎年2名以内もしくは1グループ以内

奨励賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった概ね40才までの個人、毎年3名以内

本年度は奨励賞の該当者はナシ。

功績賞



受賞者

河西 基 殿 ((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

選考理由:

受賞者は、研究機関および所属企業に在職中、バックエンド分野の研究開発に従事し、放射性廃棄物処分の研究・開発分野において、地下水理、安全評価の観点から多くの研究成果を挙げてきた。特に、低レベル放射性廃棄物処分の安全確保に関し、余裕深度処分(現、中深度処分)の不確実性を考慮した長期の安全評価の考え方の取りまとめに大きく貢献した。また、1F事故の初期段階での汚染水対策の検討への参画など、長年にわたり我が国のバックエンド分野の発展に大きく貢献してきたことは明白である。

学会においては、日本原子力学会バックエンド部会長、バックエンド部会の下で取り組んでいる放射性廃棄物管理に関する東アジア国際フォーラム(EAFORM)の立ち上げ、標準委員会の分科会の主査を歴任するなど、同分野での学術活動への貢献は顕著である。

以上、受賞者のバックエンド分野における功績は著しく、功績賞に値するものと思料する。今後のバックエンド分野の指導的役割とともに、司令塔としての活躍を強く期待することを付記したい。

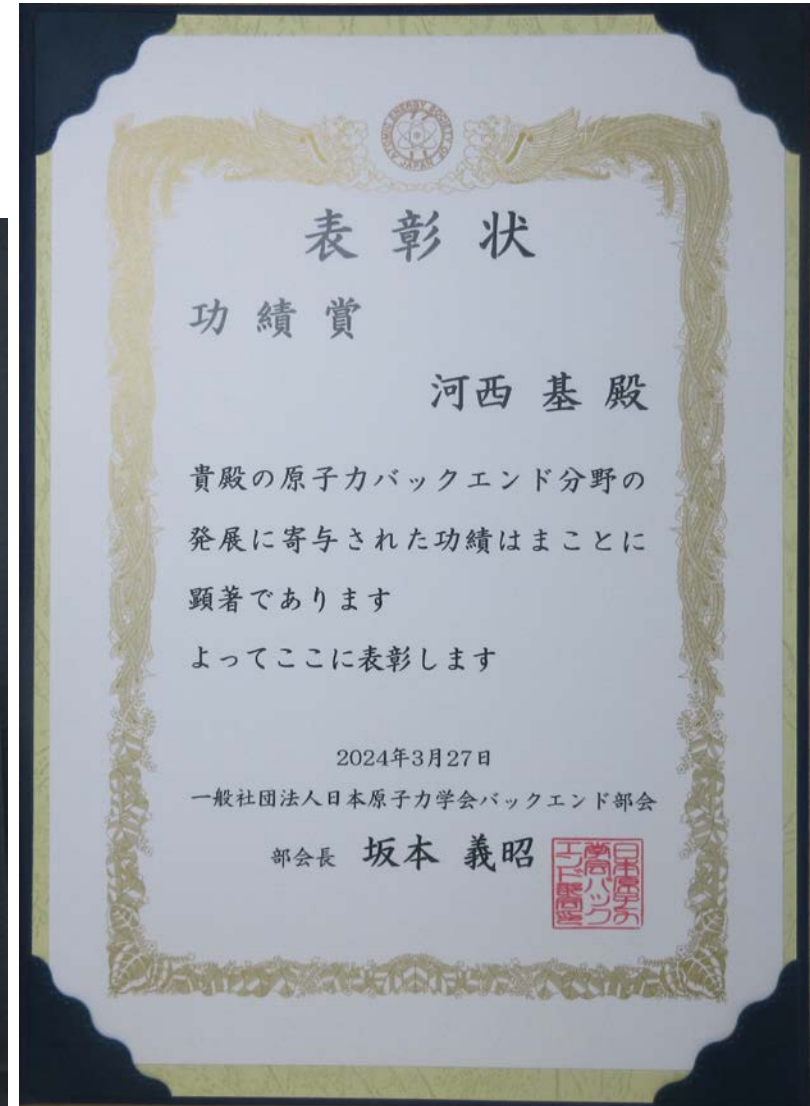
功績賞



受賞者

河西 基 殿

((株)アサノ大成基礎
エンジニアリング)



受賞者からひとこと



功績賞を受賞して 河西 基様



このたびは、日本原子力バックエンド部会功績賞という栄誉ある賞を賜り、心よりお礼申し上げます。

これまでの約40年間、原子力バックエンドの特に放射性廃棄物処分の分野での研究や仕事にほぼ一貫して従事して参りました。職場や学会活動など多方面でお世話になった皆様方の支えのおかげと、この場を借りて深く感謝する次第です。

放射性廃棄物の最終処分では長期的な視点での技術の高度化と継承、人材育成などが益々重要となり、バックエンド部会への期待と役割も一層増して来ております。

バックエンド部会の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念するとともに、老骨で微力ではありますが、何らかの貢献ができるよう今後も精進して参ります。ありがとうございました。



受賞者

日本原燃株式会社 埋設事業部 殿

選考理由:

受賞者は、1992年に我が国最初の低レベル放射性廃棄物埋設施設として廃棄体を受入れ、30余年にわたり安全な操業を続けてきた。この間、事業変更許可申請を通じて、低レベル放射性廃棄物に対してどのように設計・建設・操業・覆土を行い、安全性を確保しようとしているのかについて、最新の科学的知見や技術開発成果を統合して包括的に説明することにより、低レベル放射性廃棄物処分に関する規制適合性を示した。さらに、日本の地質・環境条件に適合したコンクリートピット処分の工学的安全性能等について、その技術の標準化のための貴重なデータを学協会に提供し続け、放射性廃棄物処分のさらなる技術的信頼性の向上に寄与してきた。

これらはバックエンドの中核的分野の一つであるところの低レベル放射性廃棄物処分に対する顕著な技術上の功績と認められる。

以上、受賞者のバックエンド分野における成果は著しく、業績賞に値するものと思料する。今後のバックエンド分野の先導的役割とともに、低レベル放射性廃棄物処分の推進に強く期待することを付記したい。

業績賞



受賞者

日本原燃株式会社
埋設事業部 殿



受賞者からひとこと



業績賞を受賞して 日本原燃株式会社 埋設事業部 様



このたびは日本原子力学会バックエンド部会業績賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。

日本原燃の低レベル放射性廃棄物埋設センターは、1992年から30年以上にわたり、安全・安定操業を続けてまいりました。また、ピット処分の安全性能等について、技術の標準化のためのデータを学協会に提供し、放射性廃棄物処分の技術的信頼性の向上にも寄与してまいりました。これは、当社の事業を受け入れて頂いている青森県・六ヶ所村の皆さま、および、関係機関・協力会社の皆さまのご理解・ご指導・ご協力の賜と思えます。この場をお借りして 厚く御礼申し上げます。

引き続き、この受賞に恥じることないよう事業を進め、原子燃料サイクルの発展に寄与してまいりたいと思えます。



優秀講演賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れた口頭発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生優秀講演賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

ポスター賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れたポスター発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

優秀講演賞



2023年春の年会
受賞者

宇都宮 聡 殿

(九州大学)

選考理由:

2023年春の年会の口頭発表2107「福島第一原発由来デブリ片中のプルトニウム存在状態」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2023年春の年会 優秀講演賞を受賞して 宇都宮 聡 様



この度は春の年会・優秀講演賞を頂き、大変光栄に感じております。本発表では福島第一原発から放出された高濃度放射性セシウム含有微粒子に付随するデブリフラグメントのウランとプルトニウムの状態解析結果を報告させて頂きました。以前に論文化したものになります。

<https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2020.140539>

コロナで発表の機会がありませんでしたが、久しぶりに原子力学会で発表する機会を頂き、勉強にもなりましたし、このような素晴らしい賞を頂くことができ嬉しく思っております。私達の研究は時に疎まれる側面をもってありますが、新しい分野を切り開いていく可能性を感じています。

今後もバックエンド部門に貢献できるよう、研究に邁進していきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

優秀講演賞



2023年秋の大会
受賞者

魚住 浩一 殿

(電力中央研究所)

選考理由:

2023年秋の大会の口頭発表1F13「福島第一原子力発電所の燃料デブリ取出しに向けたダスト飛散率データの整備 (8)詳細データ試験装置による各工法の飛散率データ取得と工法間比較」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2023年秋の大会 優秀講演賞を受賞して 魚住 浩一 様



この度は、2023年秋の大会での発表に対して優秀講演賞を頂き、大変光栄に存じます。本発表は12件からなるシリーズ発表の一部であり、本事業に携わる関係者を代表して感謝いたします。

本事業は燃料デブリ取出しのための切削に伴って発生するダスト、即ち、燃料デブリ切削粉による被ばく量評価の技術基盤確立に向けて廃炉・汚染水対策補助事業として実施したもので、まずは乾燥条件にて燃料デブリ切削候補の各工法により金属、セラミック、モルタルなどのコールド供試体を切削する試験を実施し、ダストの飛散挙動を調べました。今後は水が存在する系など、より実際に近い条件での試験や調査・解析を進め、燃料デブリ取出し時の安全評価に貢献できるよう務めていきたいと思っております。 12

学生優秀講演賞



2023年春の年会
受賞者

ANIL CAN YILDIRIM 殿

(東京大学)

選考理由:

2023年春の年会の口頭発表3G12「The Effect of Structural Interaction of Radionuclides and Sodium Alkalinized Metakaolin-Based Geopolymer on Leakage from Host Matrix」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2023年春の年会 学生優秀講演賞を受賞して

ANIL CAN YILDIRIM 様

Thank you very much for this honorable award.

My research has centered on the leaching behavior of radionuclides from metakaolin-based geopolymer matrices, presenting an analysis of various metal ions over time and in different aqueous environments.

I am hopeful that the outcomes of this study will contribute to the field of back-end cycle, enhancing our understanding of geopolymer matrices for nuclear waste disposal and emergency applications.

Receiving this esteemed award further motivates me to persist in my dedication to research for environmental and societal contributions. With gratitude, I pledge to continue my work diligently, striving to make a positive impact on both the scientific community and society.

Best regards.

受賞者からひとこと



2023年春の年会 学生優秀講演賞を受賞して

ANIL CAN YILDIRIM 様



(日本語)

このような光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。
ございます。

本研究では、メタカオリンベースのジオポリマーマトリックスからの放射性核種の浸出挙動に焦点を当て、異なる液性条件において、様々な金属イオンが時間と共にどのように溶出するか評価しています。

この研究の成果が、福島第一原子力発電所事故で発生した多様な放射性廃棄物の処理や事故時の応用においてジオポリマーの理解を深める一助となることを期待しています。

この賞を受賞したことで、環境と社会への貢献できる研究を続ける意欲を新たにしました。

この度は、誠にありがとうございました。

学生優秀講演賞



2023年秋の大会
受賞者

川口 未知可 殿

(芝浦工業大学)

選考理由:

2023年秋の大会の口頭発表2E22「液相焼結固化の構築を目指したCs吸着モルデナイトの相転移挙動の検討」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



2023年秋の大会 学生優秀講演賞を受賞して 川口 未知可 様



この度は、学生優秀講演賞という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。大変光栄に思う気持ちと同時に、身の引き締まる思いです。

本研究を進めるにあたり、ご指導いただきました新井剛教授をはじめ、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

学生としての残りの時間、そして社会に出た後も原子力バックエンド分野に少しでも貢献できるよう、より一層努力してまいります。この度は本当にありがとうございました。

ポスター賞



第39回バックエンド夏期セミナー 受賞者

山本 修一 殿

(大林組)

選考理由:

第39回バックエンド夏期セミナーポスターセッション「再冠水時の人工バリア内の間隙空気圧の発達挙動」について、「“ポスター賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



第39回バックエンド夏期セミナー

優秀ポスター賞を受賞して **山本 修一** 様

この度、ポスター賞を賜りましたこと、大変光栄に思いますと共に関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究は、室内カラム試験とTHM連成解析により、地層処分施設の再冠水過程におけるベントナイト系緩衝材内の間隙空気圧の発達・消散挙動をシミュレーションし、そのメカニズムとバリア性能への影響を検討しようとするものです。

これまで長い間放射性廃棄物処分に係る仕事をさせていただきましたが、この賞を「まだまだ頑張りなさい」賞と受け止め、非力ではありますが少しでも長く放射性廃棄物処分事業に貢献できるよう精進していく所存です。

学生ポスター賞



第39回バックエンド夏期セミナー 受賞者

菅原 健太郎 殿

(東海大学)

選考理由:

第39回バックエンド夏期セミナーポスターセッション「使用済MOX燃料熱特性を考慮した処分場設計の検討」について、「“ポスター賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



第39回バックエンド夏期セミナー

学生優秀ポスター賞を受賞して **菅原 健太郎 様**



この度はポスター賞(学生部門)に選出していただき、大変光栄に存じます。これまでご指導をいただきました若杉圭一郎先生に厚く御礼申し上げます。本研究では使用済MOX燃料を再処理した際に発生する、高レベル廃液から製造されたガラス固化体を対象として処分場のレイアウトを検討しており、現在は同一処分場内での従来のガラス固化体との併置処分等を検討しています。今後ともバックエンド分野へ貢献できるよう、より一層努力してまいります。

2023年度バックエンド部会賞 受賞要件



論文賞

部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去3年間の論文を対象。毎年1編以内。ただし、主著者が同一であり、複数の論文が一連となっている場合は、1編とみなすことができる。

功労賞

バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象。平成27年度新設。毎年2名以内。

本年度は功労賞の該当者はナシ。

論文賞



受賞者

新橋 美里	殿	電力中央研究所
横山 信吾	殿	電力中央研究所
渡邊 保貴	殿	電力中央研究所
吉川 絵麻	殿	電力中央研究所
湊 大輔	殿	電力中央研究所

選考理由:

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.30-2 (2023.12)に掲載の論文「15年間吹付コンクリートに接した軽石凝灰岩のアルカリ影響」について、「論文賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



受賞者からひとこと



論文賞を受賞して 新橋 美里 様 共著者の皆様 を代表して



この度、私共の研究論文「15年間吹付コンクリートに接した軽石凝灰岩のアルカリ影響」を論文賞に選定頂きましたこと、著者一同、大変光栄に存じます。本論文の査読者の皆様、編集委員の皆様をはじめ、ご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

本論文は、放射性廃棄物処分施設におけるセメント系材料ーベントナイト系材料相互作用に関する工業的アナログ研究として、軽石凝灰岩にコンクリートの吹付処理が施された既存の施設より試料を採取し、そこで生じた二次生成物の沈殿反応を調べた内容になります。

本受賞を励みに今後も研究を進め、バックエンド分野の発展に貢献できるよう、より一層努力して参ります。今後とも皆様からのご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。